ISSN 0388－5569
VOL. 9 No. 3
（通巻27号）
1988. 10

Library News

山口大学附属図書館報

目次

本館珍蔵の朱印船貿易時代の世界地図
川村博忠……1
医学部分館が大きくなりました……3
図書館ライブ①
利用者へ図書が届くまで……5
カウンターに座れば大学が見える……6
寄贈図書……6
備付ビデオの増加分……7
人事異動……8
日　誌……8

本館珍蔵の朱印船貿易時代の世界地図

川村博忠

山口大学図書館の棲息堂文庫に『萬國総圖』（寛永14年）と題する近世初期の貴重な世界図1鋪が所蔵されている。鎖国令が出される以前の江戸時代初期、朱印船貿易が展開していたころに日本で作成された世界地図として大変珍しいものである。この種の世界図は、後世の写本を含めても他にわずか2点の現存が知られているのみである。

棲息堂文庫の『萬國総圖』は折図の形態をなし、広げた全体の大きさはタテ114、ヨコ120センチメートルである。内容はアジア、アフリカおよびヨーロッパの旧大陸のみを図面に大きく描き、下部に交易相手国と長崎よりそこまでの距離と交易品目が列挙されている。世界地図としての大陸の形状は稚拙さを拭いきれないものの、これこそ長いあいだ三国世界観の古い因習的認識にとどまっていた日本人が、ようやく広い世界を現実に認識しはじめた、いわばわが国黎明期の世界地図として興味をそそられる。本図は、日本人自身が海外に乗り出し、東南アジアを舞台に西洋人と競争して交易活動を展開するなかで自ら確かめた地理的知識に、ポルトガル人のもたらした情報を加えて生み出した世界地図とみなすことができる。

安土・桃山時代から慶長、元和、寛永といった江戸時代初期にかけてわが国でできた世界図を大別すると、①ポルトガル、スペイン人によってもたらされ、南蛮趣味によって装飾的になった世界図、②ポルトガル人の情報と朱印船貿易の知識によってつくられた世界地図、③イエズス会宣教師が持ち込んだマテオ・リッチ世界図系統の世界地図――の三種類に分けることができるであろう。棲息堂文庫の『萬國総圖』は上記のうちの②に属していて、朱印船貿易に関係をもつ世界地図である。この種の世界図の一般的な特徴は、ⓐ　球面プロジェクション（作図法）を用いることなく、単純な方格図法によっている。ⓑ　旧大陸のみを図示していて、新大陸を含めない。ⓒ　「日本長崎ヨリ異国湊口マデ船路積」などと題する交易相手国までの距離と交易品目を並べた詞書（ことばがき）をともなう――ことなどである。図中に新大陸を含めないのは、日本との交易関係がなかったためであろう。

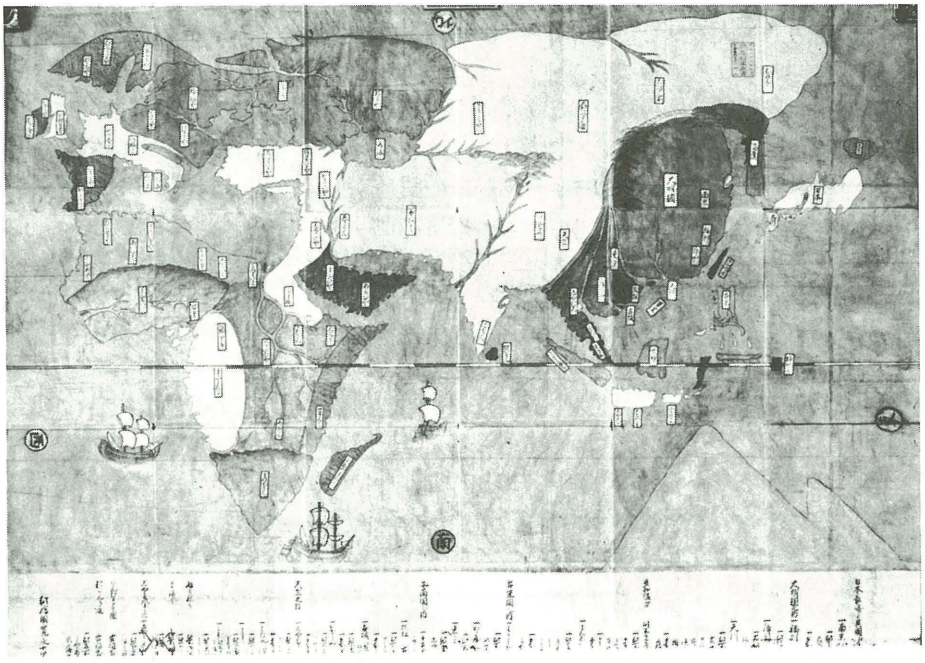
ところで、朱印船貿易の知識によって出来たとみられる世界地図をより細かく分類すると、さらに二つの系統に分けられる。一つは図中にいっさい経緯度線の記入を欠き、装飾的色彩が強く、一般には地図屏風に仕立てられている。この系統のもので現存するものとしては、岡山県妙覚寺所蔵図や大阪の河盛家所蔵図などのいくつかが知られている。これに対する他のもう一つは、図形は前者よりやや稚拙であるものの、図中に赤道、南北回帰線、極圏を記入し、大西洋とインド洋に合計三隻の交易

船が描かれている。このほうは折図に仕立てられていて装飾的要素はなく、朱印船貿易関連世界図の本源ではないかと思われる。詞書の末尾に「寛永十四年丁丑八月於長崎書之、但公方様へ上り候下書」との書入れがあるのも特徴である。

棲息堂文庫の『萬國総圖』は後者であって、この系統の世界図で現存するのは横浜市立大学図書館と茨城県古河市の鷹見家（旧古河藩家老）に所蔵される２点が知られるのみである。山口大学所蔵のものはこれまで紹介されたことがなかったので、これを加えると全国で３点が現存することになる。このうち鷹見家所蔵のものは、添書によって元禄４年（1691）の模写図を、天保７年（1836）に再度模写したものであることがはっきりしている。ところが、山口大学図書館所蔵のものにはそのような後世の模写であることを語る添書はない。図中の字体もかなり古そうであるので教養部の木村忠夫教授（日本史）にも判断をあおいだところ、やはり字体は江戸初期のものとみてほぼ間違いないであろうとの見解であった。

奥書によると、この世界図は寛永14年（1637）に長崎で作成され、将軍（徳川家光）へ提出したものの下書であるという。提出者は恐らく長崎奉行であろう。棲息堂文庫の『萬國総圖』が果たしてその下図そのものであるかどうかははっきりしないが、それの写図であるとしても将軍への提出時、さもなければそれからさほど遠くない時期に写したものとみなしてよいであろう。

ところで、江戸幕府はすでにそれより２年前の寛永12年（1635）に鎖国令を発して、日本商船の海外渡航を一切禁止している。鎖国後にこのような海外交易に主眼をおいた地図が新しく作られるとは考えにくい。付載の詞書などから考えて、本世界図の原図は少なくとも寛永12年以前、まだ朱印船貿易が盛んであった時期にすでに作成されていたものと考えざるを得ない。それを将軍の要請によって寛永14年に浄書したものであろう。



この世界図をみると、日本北辺ではまだ千島・樺太（サハリン）についてはその存在さえ知られず、蝦夷（北海道）は団塊状に図示されるものの、本土とは別色で表していて異国の認識で扱われている。満州に記す「おらんかい」の国名は、豊臣秀吉の朝鮮半島出兵（文禄の役）によって得た知識とされているものである。北辺についての地理的知識がこのように極めて希薄であるのに対して、東南アジアではインドシナ半島の形態はやや不自然ではあるがマレー半島。スマトラ島、ジャワ島、ボルネオ島などがはっきりしていて、マルク諸島までも図示している。「大明」（中国）、「呂宋」（フィリ

ピン）、「交趾」（ベトナム北部）、「占城」（ベトナム南部）、「かほしや」（カンボジア）、「しやむろ」（タイ）など朱印船貿易相手国の位置が正しく示され、とくに「呂宋」では「まんえいら」「かかやん」「はかしな」などの都市名までも細やかに記されていて、この方面の海域に勇飛した日本商船の活躍を彷彿とさせるものがある。また、インドには「いんぢあ」と西洋での呼び名を記す一方、「天竺」という日本古来の呼び名を併記しているのも興味深い。この世界地図は西洋からの情報と日本人自身の知識をドッキングさせて生み出された作品、つまり東西文化交流の見事に結実したよい実例ではなかろうか。

（教育学部教授）

医学部分館が大きくなりました

医学部分館は昭和59年３月に新築竣工し、同年８月から開館利用されていましたが、この建物は当初から２階建て計画で設計されていたものが、諸般の事情で１階部分と２階の一部がまず第一期工事として建築されたものでした。

従って蔵書は収容しきれず、また閲覧座席も不足し常に満席という状態でした。

残りの２階部分の第二期増築工事も、最初はすぐに着工される予定でしたが、予想外に延びのびになりようやく昭和62年11月着工、63年３月に竣工しました。

去る７月20日より休館し図書を移動、備品を設備し、１、２階全体の模様替えを行いましたが、８月22日より開館いたしました。

増築による模様替えにより、１階開架閲覧室（576 ㎡、34席）は新着誌からバックナンバーまでの雑誌閲覧室になりました。

ここには当キャンパスで受入られている全ての雑誌（医療短大分も含む）が開架されています。バックナンバーの将来への増加収容力を確保するため、閲覧座席部分は以前より少なくなりましたが、１階開架閲覧室を雑誌だけで構成したことは、すっきりし利用しやすくなったと思われます。

なお従来どおり 1979 年までのバックナンバーは電動集密書架に納められており、1980 年以降のものは開架書架に置かれています。

２階には単行書開架閲覧室、グループ学習室、視聴覚室、喫煙休憩室、便所が増築されました。従って２階は一期工事で建築されていた分館長室、特殊資料室にこれらを加えたものとなりました。

単行書開架閲覧室は 576 ㎡、座席数 112 席で、座席の中36席はパーテーションで仕切った個席になっています。

常時使用される新刊書および比較的新しい図書（約２万冊）は開架書架に、それ以外の古い保存的図書は手動の集密書架に納められています。

また杉山記念文庫もここに置かれています。

グループ学習室は16席が用意されており、グループ学習に利用されています。

視聴覚室には、ヘッドホーン５人まで使用可能のビデオ装置（３台）、プロジェクト・ビデオ視聴装置（１台）、パーソナル・コンピュータ（２台）が設置されています。ただし、この視聴覚機器の利用方法、ソフト資料の収集については、これからの検討課題になっています。

すなわち、大学での視聴覚教育の行われかたに対して、図書館はどのような役割を分担するのか、また学内類似施設とどのように調整していくのか等、大学の方針を確立してもらう必要があります。

増築完成により当館は、総面積 1,956 ㎡、蔵書収容力 172,000 冊、閲覧座席総数 162 席となり、他大学にもひけを取らない近代的医学図書館としての施設の充実と、業務の電算化推進と相まって、より一層、研究、教育、診療、学習に効果が期待されています。

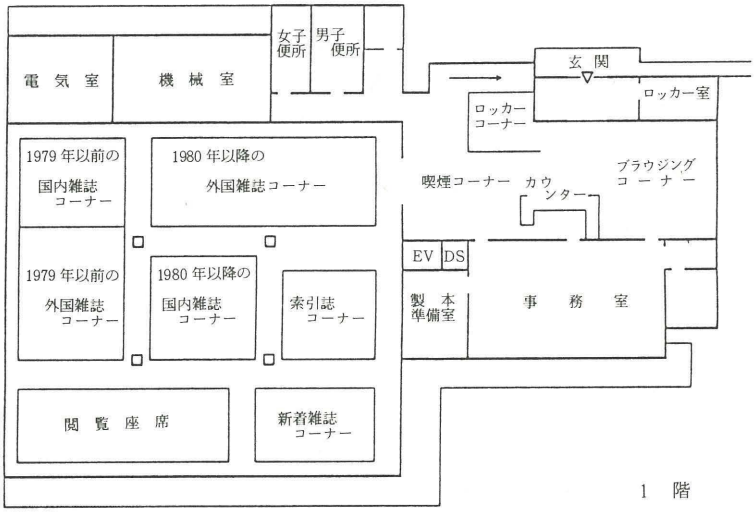
８月22日開館以来、夏休み中であるにもかかわらず、待ちかねたように利用者が来館し、グループ学習室も含めて、連日全座席の70～80％が一日中利用されていることから、前記の効果は充分に期待

されますが、１～２月の試験期には満席となり座席が不足するのではと心配しています。

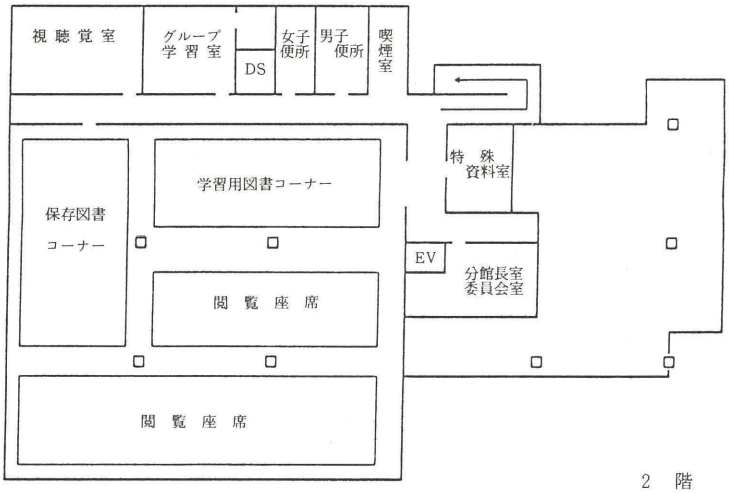
おわりになりましたが、増築工事の早期実現にご尽力いただいた関係者の方々、また工事にあたって私どもの無理な希望を最大限に採り入れてくださった施設部の関係者方々、工事関係者の方々等、学内外の多くの方々にこの紙面を借りて深く感謝し、お礼申しあげます。

（医学部分館整理係長　昼馬　逸郎）

医学部分館平面見取図



1　階



2　階

図書館ライブ①　利用者へ図書が届くまで

利用者の皆さんが、図書館で図書購入申込みをされてから研究室に「図書整理済」のお知らせが届くまで、あるいは閲覧室に図書が並ぶまでの間に、図書館の事務室ではどんな手続き・作業をしているかご存知ですか？　「知らないが、興味もない」？　「とにかく、早く使いたいものだ」？　私達も、できるだけすみやかに、受入れ図書を研究・学習のお役にたてたいと願っています。

なにはともあれ、受入・整理業務を電算化して１年半が過ぎ、おおむね安定したこの時点で、総括して見たいことがいくつかあります。そのひとつとして、この購入申込から利用までの時間経過を見直し、期間を短縮する方法も工夫したいと考えました。

いま、図書購入のための書店への発注以後、目録作業を終わって閲覧室への排架、あるいは、研究室へ渡るまでの時間を調べています。

方法として、１988年度受入れの8,300冊から100冊ごとに抽出した83冊について、書店への発注、書店からの現物の納入、会計手続き、目録作業、研究室への貸出し準備（閲覧室への排架）の、日数を見ました。

1. 発注～書店より納入までの日数は、即納から３か月以上まであって（平均すれば27日と出ましたが、あまり意味のない数字です）、それぞれ事情があり簡単には分析出来ないので、別の機会に受入れ係長が説明する予定です。
2. 検収と会計手続きに、平均４日。
3. 目録作業には、平均16日かかっていました。約80％の図書は20日以内に目録の仕事を終わり、閲覧係に渡されています。
4. 閲覧係での貸出し準備は、２～３日を要し、整理済み通知が発送され、特別の事情のないかぎり、約１週間のうちに研究室から受取に来られていました。

要約すると、図書の購入申込みをされてからご利用になれるまでの期間は、和洋図書を含めての平均で45日。73％の図書が発注後50日以内にお手元に届いた筈です。

この「期間」を左右するのは、主に発注から図書納入までの部分なのです。（受入れ後の作業は、日数的にはおおむねコンスタントです）そういう訳で、もっともスムーズに入る図書なら１か月足らずですが、国外への注文や、国内でも複雑な流通事情に係わる場合は、あれこれと手間取ってかなり日数がかかります。

今回図書の受入れ～目録作業の流れを調べてみて、整理係としても、利用までの日数を短くするために出来ることがいくつかあることに気付きました。（図書の受入冊数が毎月平均することが条件ですが）「目録」の期間を１週間～10日位まで縮められるのではないか。仕事の組立てを考え直しているところです。

目録作業には、「充分な図書検索ができるようによい目録をつくる」という目的があるだけに、安易なスピードアップを計ることは出来ませんが、学術情報センターからのデータ取込みにより、さらに目録作業省力化の可能性が出てきています。

それとともに、これからのオンライン検索の多様性を生かすため、入力データの内容についても、しっかり考えてゆきたいものです。

（本館整理係長　恩知　陽子）

カウンターに座れば大学が見える

9月21日、大学は前期試験の真最中。正午、1時間のカウンター当番。来るは来るは、返却する者、席取りする者、貸出しする者、カウンターの前は学生でごったがえす。図書館員である私は嬉しいような悲鳴をあげたくなる。こんなにも利用者がいたのか！〔試験期にだけ活況を呈する現象は決してよいものではありませんが〕

しかしである。貸し出される本、返却される本を見ると愕然としてしまう。なんと古い本の多いことよ！理科系・人文社会系を問わず、昭和30・40年代の本が平気で貸し出されている。中にはボロボロの本もある。情けない。心が痛む。勿論、比較的新しい本も貸し出されてはいるのだが。なにしろ学生用図書の年間受入冊数がかなり少ないのだ。利用される図書の傾向をみると、いわゆる基本図書といわれるTextbook的なものやそれに近い副読本が多くみられる。

私　：こんな古い本しかありませんか？（書庫からの貸出の時）
　　新しい図書が開架図書にあるはずですが、〔実は開架図書も古い本が多いのだが〕
学生：アリマセン！

大学の教育は、高校までのそれとは違って、自ら学び自ら研究するものです。そのためには、図書館の蔵書が充実しなければなりません。ところが、現実は上記のような状態なのです。これは、単に図書館だけでなく、大学全体の問題であって教官も学生も図書館員も一緒になって取組むべき課題ではないでしょうか。

図書館にもっと本を！

（本館整理係　横山　茂樹）

寄贈図書

（本館）

功木　俊雄（教育学部教授）
　スポーツと教育の歴史　成田十次郎編
　不昧堂出版　1988

小嶋　正己（経済学部教授）
　中国社会主義賃金の展開　小嶋正己
　千倉書房　1988

三戸　信人（理学部教授）
　小事典・微生物の手帖　講談社　1988

畑中　顕和（農学部教授）
　みどりの香り　―青葉アルコールの秘密―　畑中顕和著　中央公論社　1988

上杉　信敬（教養部助教授）
　憲法教室　阿部照哉　法律文化社
　1987

三木　俊克（工業短期大学部助教授）
　ESR dating and dosimetry. Ed. by M. Ikeya and T. Miki. Ionics Pub. 1985

小川　毅（山口県立下関第一高等学校教頭）から3種類の英語教育雑誌のご寄贈がありました。

英語教育（大修館書店）
　第9巻（1960）―第36巻（1987）
英語教育評論（オックスフォード大学出版局）
　第3巻（1969）―第5巻（1971）
現代英語教育（研究社）
　第1巻（1964）―第19巻（1982）

（工学部分館）

社団法人常盤工業会
　The Encyclopedia Americana
　Grolier Inc., 1988. 30 vols. 1 set.

備付ビデオの増加分

（本館）

レーザーディスク

1. Anna Karenina
2. Around the World in 80 Days （80日間世界一周）
3. Blue Bird （青い鳥）
4. Don Quichotte
5. 怒れる地球一活火山
6. 〝心〟を科学する
7. Kongress Tanzt （会議は踊る）
8. Leise Flehen Meine Lieder（未完成交響楽）
9. Little Women （若草物語）
10. マクベス
11. 視覚美術館

ビデオテープ

1. アイソトープ

   第１巻 ： アイソトープとは 人体への影響

   第２巻 ： 安全取扱の基礎

   第３巻 ： 安全取扱の実際

   第４巻 ： 医療施設における安全取扱
2. Dr. Johnson : a Video Portrait
3. 学術情報センター

   学術情報のトータルネットワークを目指して
4. JICST 広報用 情報一未来への手紙
5. JOIS入門コース編

   概要編 〝今日から JOIS〟

   基本コマンド編 〝情報検索のしかた〟
6. JOIS検索機能コース編

   〝JOIS コマンドの使い方〟
7. Living in Washington
8. London
9. Sherlock Homes & Dr. Watson

人事異動

〔採　用〕　（63. 7. 1）
田村ゆう子　　情報サービス課閲覧係

〔退　職〕
広島　久子　　情報サービス課閲覧係

日　　誌

6月10日（金）　　第52回附属図書館運営委員会
〃　〃　　〃　　第24回本館図書委員会

6月22日（水）　　工学部分館図書委員会

6月23日（木）～24日（金）　　第35回国立大学図書館協議会総会（神戸・兵庫県公館、相楽園会館）

7月13日（水）　　医学部分館図書委員会

7月20日（水）～8月20日（土）　　医学部分館休館（2階設備、図書移動作業）

8月8日（月）～8月12日（金）　　本館蔵書点検

編集・発行　山口大学附属図書館　〒753　山口市大字吉田　電話（0839）22－6111　内線788